た次第である。

最後に文獻の拜借を賜つた浪速博物學會の八木沼健夫氏に謹しんで感謝の意を表する。（昭和15年5月12日稿）

モズの早贄になつた蜘蛛に就いて

加　藤　正　世

（東京市板橋區　石神井公園）

モズと云ふ小禽は秋から春にかけて里に現はれ，色々な小動物を木の枝等に刺して行くことはよく知られて居る習性であつて，昔から早贄或は草茎の名で親しまれて居るものである。この事に就いては籾山德太郎氏が昨年12月號の昆蟲界に67頁に亘る論文を發表されて居るから是非參考とせられ度い。

筆者は石神井風致地區を中心として產する有ゆる物（生物以外の資料も含む）を極力集めて調査中であるが，早贄もその一部にしてある。その樣な關係で出來る限り發見に努力して居るが，蜘蛛の犧牲者は今年初めて發見することが出來たので，早贄としては未記錄でもあるので，記錄を兼ねて紹介することゝした。Data は寫眞のラベルに見られる通りであるから略して置く。蜘蛛は成熟したスズキドクグモ *Lycosa* sp. ¶ の♀で，背甲の左側に小枝が刺つて居る。第2步脚は脫落したか或はモズの胃の腑に納まつたかして附いて居ない。發見當時は腹部の狀態から見て犧牲になつてから2日目位らしく，未だ生々して居るので，早速腹部を切り離して乾燥標本の方法を講じて此處に示した樣な標本に製作した。從つて完全な早贄標本に出來て居る。

¶ *Lycosa suzukii* Kishida として知られて居るが原記載が發表されて居ないので sp. として置く。

蜘蛛の早贄の記録は決して多くはない。寧ろ珍らしいものではなからうかと考へられる。私自身の經驗からしても，此の標本が初めてのものであるし，記錄を見ても餘り見當らない。トカゲや蛙の如きものは早贄の代表者の樣に多く發見されるものであるが，地上に生活して居る個體數から云へば蜘蛛の方が遙かに多く，モズの眼にもつき易い筈である。然るに早贄が稀であると云ふことは，何分にも形が小さいから木の枝に刺さないで食道を通過させる結果ではないだらうか。

早贄の記錄から蜘蛛に關するものを拾つて見ると，次の樣なものがある。種名の明かなるもののみを揭ぐ。

1. *Atypus karschi* Doenitz　　　チ グ モ
2. *Agelena limbata* Thorell　　　ク サ グ モ
3. *Dolomedes rulfureus* L. Koch　　　イワウイロハシリグモ
4. *Lycosa ruber* Kishida　　　ア カ ド ク グ モ

1，2，3 は籾山氏の論文〔昆蟲界 vol. vii, no. 70, p. 40 (1939)〕に揭載されたもの，4は故深澤治男氏〔Acta Arachnologica vol. ii, p. 72 (1937)〕に寫眞と共に記錄された。是等に今回の私の報告を合して5種類が明かになつた

わけである。

若しも斯かる早贄を發見された方があつたら是非御報告或は標本の御寄贈に與り度い。

ユカタヤマシログモの兩性交際と卵囊

小　松　敏　宏

（長野縣諏訪郡上諏訪町南衣之渡）

Komatsu, Toshihiro — On the habit of *Scytodes thoracica*

—— Mating and egg-sac keeping ——

Scytodes thoracica Latreille は廣き分布をもちながら，その隱遁好きな生活の故に長らく奇妙な習性が知られずに過されて來たものと思はれる。筆者は1938年以降再び表題の蜘蛛に接する機會を得たのを欣ぶものである。以下その兩性交際と卵囊につき記錄したいと思ふ。尙ほ始に當り貴重な文獻の御貸與を得た岸田久吉先生に深謝の意を表す。

1. 兩性交際

♂の出現時期は貧弱な採集記錄（於長野縣）に依ると，最も早きは1931年6月5日；最も遲きは1939年9月16日であるから，隨分長期間にわたつてゐる事を示してゐる。♂の觸肢は相當特色があるから兩性交際も面白からうと考へてゐたがそれ程ではなかつた。1939年8月28日硝子瓶內に放してあつた♀に♂を導入してみた。♂は何等の躊躇もなく♀の正面より進み，次第に潛入して第1圖の如き體型をもつて交互に觸肢を宛合ひ，約一分にして別れた。

2. 卵　　囊